

2015年10月27日

原子力規制委員会委員長 田中 俊一様  
関西電力社長 八木 誠様

## 美浜原発3号機の即時廃炉を求める要請書

### 関電「従来の評価手法では耐震健全性を示せない」と明言 適合性審査は直ちに打ち切りを

関西電力美浜原発3号機は、来年11月30日に運転開始40年が経過する老朽原発です。この日までに新規制基準適合性審査を終え、寿命延長に係る手続きを終えなければ廃炉となります。

新規制基準適合性審査は困難を極めています。基準地震動の策定にあたり、活断層の上端深さについて、近くにある高浜原発や大飯原発に合わせて深さ3キロを主張する規制委側に対し、関電は4キロを主張してなかなか譲りませんでした。結局関電が折れて3キロとなり、基準地震動が決まったのが今年8月20日でした。基準地震動は、750ガルから955ガルへと引き上げられました。

しかしその後、機器や施設の耐震安全性を確認する書類が関電からなかなか出てきません。関電は、新しい評価手法を適用するので時間がかかると説明、規制委側は、新しい手法では、手法の妥当性から審議しなければならず、余計に時間がかかるとしましたが、関電は新しい手法にこだわりました。規制委側は審査の効率をあげるために、従来の手法の計算結果と合わせて示すよう求めましたが、関電はこれも拒み、新しいものだけを出すと回答していました。

このような状況で迎えた今年10月15日の審査会合において、原子力規制庁櫻田規制部長は、厳しい基準地震動に古い原子炉が耐えられるかという問題だとしたうえで、関電が新しい手法を用いる目的について、「従来の手法では基準適合性が示せないからではないか」と問い質しました。すると関電の水田副事業部長は、「従来の手法では耐震健全性を示せない」とはっきり認めました。

関電は、従来の手法は簡易な方法で、新しい手法は精緻な方法だなどと言いつつ、従来の手法は、数々の原発審査を経て、信頼性を確立してきたものです。関電の発言は、老朽原発である美浜3号機が、新しい基準地震動に耐えられないことを白状したものです。そのような原発の寿命延長など認められません。関電は直ちに申請をとり下げ、美浜3号機を廃炉とすべきです。

田中俊一委員長は、人事案の国会同意に際しての参考人質疑で、「40年を超えた原子炉は厳格にチェックし、要件を満たさなければ運転させない姿勢で臨むべきだ」と述べていました。関電が、従来の手法での耐震健全性を示せないとしている以上、原子力規制委員会は、美浜3号機の審査をとりやめ、廃炉とすべきです。

### 要 請 事 項

- 一、原子力規制委員会は、基準地震動に耐えられないことが明らかとなった老朽原発である美浜3号機の新規制基準適合性審査を取りやめ、廃炉とすること。
- 一、関西電力は、美浜3号機の申請を取り下げ、廃炉とすること。

提出団体：原発に反対する福井県民会議／原発設置反対小浜市民の会／福井から原発を止める裁判の会／サヨナラ原発福井ネットワーク／プルサーマルを心配するふつうの若狭の民の会／森と暮らすどんぐり倶楽部／グリーン・アクション／美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会／脱原発へ！関電株主行動の会／川内原発30キロ圏住民ネットワーク／避難計画を考える緊急署名の会／玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会／プルトニウムなんていらぬよ！東京／グリーンピース・ジャパン／国際環境NGO FoE Japan／福島老朽原発を考える会／原子力規制を監視する市民の会（17団体）

連絡先：原子力規制を監視する市民の会

〒162-0822 新宿区下宮比町3-12-302／TEL:03-5225-7213／090-8116-7155（阪上）